



# 南中のかぜ

<http://www.koganei.ed.jp/~minamijs/>  
tel:042-383-1105・fax:042-382-0405

学校便り第10号

令和6年12月2日  
小金井市立南中学校  
小金井市貫井南町1-26-1



## 小金井市読書感想文コンクール、優秀作品から

校長 金井 誠

去る11月21日(木)、小金井市読書感想文コンクールの表彰式が行われました。本校からは、最優秀賞に選ばれた2年1組の さんと、優秀賞に選ばれた1年3組の さんが出席し、小金井市教育委員会・大熊雅士教育長からそれぞれ賞状が手渡されました。2人の感想文は、登場人物や作者に自分を重ねたり、自分の思いを率直に書き記したり、また、世間に問題提起したりと、とても読み応えのあるものでした。多くの人に読んでもらい、考えてもらいたいと思い、 さんと さんにも快諾してもらえたので、2人の感想文全文を紹介します。

### 「自己理解と成長」(太宰治「人間失格」感想文)

2年1組

「人間社会から疎外されている」という感覚。私は「人間失格」を読んで、複雑な感情を覚えました。主人公の葉蔵が感じた孤独感は、人間の暗然たる感情そのもののような、けれども、どこか共感できてしまう、そんな感情でした。

葉蔵が幼少期から「道化」を演じることで周囲との関係を保とうとする姿は、私自身と重なる部分がありました。

小学五年生の私は、周りの意見に合わせるのが習慣になっていました。休み時間に一人の私はただ席に座り、いつも絵を描いていました。窓から差し込む日差しが机を照らし、私に暗い影を落としています。クラスメイトたちの笑い声や話し声が遠くから聞こえてきますが、私の心には届きません。まるで自分だけが水の中にいるような感覚でした。いつも自分の意見を言うことができず、ただ周りの流れに身を任せるだけでした。

周りと同じように振る舞うことで、仲間外れにされないように必死だったのですが、その結果、自分という存在がもやに包まれて見えなくなっていました。

葉蔵が上京してからの墮落と混乱は、私が小学三年生の頃の経験と重なります。当時は引っ越しや、新たな自分の一面を知る機会があったので、大きな節目となった頃でした。両親の「早く寝なさい。」や「勉強しなさい。」といった言葉を素直に受け取らず、「鬱陶しい」という捉え方をしていました。それが両親への反抗へとつながっていたように思います。

今思えば、当時は自分と周りとの違いが見え始めた時期だったと思います。周りに適応しようとした部分や、反抗へとつながっていく姿は、道化をしたり、酒や遊びによる社会に対する反抗につながっていった葉蔵と重なります。

本当の自分と仮面の自分との違いに悩んで、自分を見失う気持ちは手に取るようにわかります。さらに、勉強や人間関係での失敗が続き、「自分が学校に適應できないのではないか」という不安と、葉蔵が感じた「人間社会に適應できていない。」という感覚には、似た部分がありました。

しかし、異なる部分もありました。私が感じた孤独は、「自分から周囲に歩み寄ることができない。」というものです。一方、葉蔵が感じた孤独は、「人間社会に適應できない」、「誰も自分を救ってくれない。」というものでした。

自分と他者の線引きができて、誰でも「人間失格」している部分はあるということに気づいていれば、もっと楽に生きていたのではないかと思います。彼が思う「普通の人間の営み」ができないから、自分は人間ではないと認識したのだと感じました。二十代にして自分に「人間失格」の刻印を押すのがどれだけの絶望か伺い知れません。彼が人間に人一倍希望を抱いたからこそ、失望し、信じられなくなってしまったように思いました。

この本を読んで、私は自分の過去の行動や感情を振り返り、自己理解を深めることができました。自分と葉蔵の不安や苦しみ、孤独などの共通点を見つけ、葉蔵を客観視して分析したことで、自分とも距離を取って、問題を解決するというのを冷静に考えることができました。また、葉蔵の生きざまを見つめたことで自分の暗い感情が引きずり出され、自分の新たな一面を知り、大きな成長へと発展させることができました。

さらに、葉蔵のように自分を偽ることで、一時的に安心感を得ることができても、長期的には自分を傷つけるだけだと気付かされました。自分の本音を隠さず、自分らしく生きることの大切さを再認識し、少しずつでも自分を受け入れる努力を始めきかけとなりました。

また、葉蔵が最後に見つけたわずかな希望の光も、私にとって大きな励ましとなりました。日々生きるのがつらかった葉蔵が、少しでも生きようとしたのは、彼が自分を受け入れようと思ったから起こした行動だと思います。人に失望し、信じられなくなった葉蔵が生きる希望を持てたのは、彼が今まで出会ってきた人々が「自分を愛してくれていた」ということに気がついたからではないでしょうか。失格しているのは自分だけではない。そう思ったのだと私は捉えました。人間に傷つけられても、その傷を癒やせるのは人間だけだったのだと思います。

どんなに絶望的な状況でも、希望を見つけることができるというメッセージは、私が困難に直面したときに支えになるでしょう。自分の嫌な面を全て受け入れることはできなかったものの、自分がどういう人間なのか考えることができ、自分との距離が縮まった様に思います。「人間失格」は、私にとって単なる文学作品ではなく、自己理解と成長のための重要な一歩となりました。

「普通とは何か」（村上裕「孤独な世界の歩き方」感想文）

1年3組

普通とはなんだろう。この本を読んだときに私は改めて考えました。

この本は、自分が他と異なる性自認をもつ人がこれまでの人生で感じたことをまとめた本です。この本の作者の村上さんは、幼少期に両親が離婚し、母親から虐待を受けてきました。さらには、他の人と違う性自認をもつことについて悩んできました。そして、他とは違う自分を憎み、普通を取り繕うようになります。両親がいること。温かい家庭で育っていること。異性を好きになること。様々な普通を追い求めます。

私は、この普通を取り繕って本当の自分を隠すという内容に違和感を覚えました。しかし、この本を読み進めていくうちにその違和感の正体に気づきました。それは、普通の定義とは人それぞれ違うのに、一般的な普通に多くの人がとらわれているということです。例えば、白人からしたら肌は白いのが普通で、肌が黒いとその人は自分の周りの人とは違うのだと思うこと、健常者は幸せで、障害者は幸せではないと思うことなど自分の周りのあたりまえを他の人にも無意識に押し付けて差別してしまっているのです。

世の中には「男性はズボンを履いていて、スカートを履くのは女性である。」という固定観念があります。しかし、私はこの考えはおかしいと思います。ファッションとは個性を表現できるものです。スカートを取り入れた服装がしたい男性も中にはいるでしょう。しかし、このような人々の思いを、世の中に存在する固定観念が邪魔しているのです。多くの人は男性がスカートを履いていたら「少し変わった人なのかな。」と思うことでしょう。これが無意識のうちに自分にとってのあたりまえを人にも押し付けてしまうということです。

実際に、私の母の職場には幼少期から耳が聞こえないという男性がいます。母も周りの人と同様に、初めは、筆談や手話が必要だと思い込み、あまりその人と積極的に会話をしようとしませんでした。しかし、実際に話をすると、その男性は話す人の口の動きを見て相手が何を話しているのか理解し、自分でも言葉を発して、耳が聞こえる人と遜色なく会話をすることができました。母は、初めから固定観念にとらわれ、思い込みをしていたことに気付きました。

このように、決して悪気があるわけではなくても、私たちは無意識のうちに人のことを差別しているのです。しかし、最近は男性でもメイクをするのが当たり前になっていたり、女性的な衣装を着てテレビに出演する人が増えてきたりしています。また、障害をもつ方や、貧困に苦しむ方への支援など世間の人々が自分とは違う境遇の人にも優しく手を差し伸べるようになってきています。これは、世間にある固定観念が少しずつ変わってきている証拠です。

このように、自分の普通を人に押し付けるのではなく、それぞれの違いを認め合い、誰もが自分の個性を自由に表現できるようになっていけば、お互いを尊重し合える社会になっていくと思います。

普通とは人それぞれ異なるのです。家庭環境や外見、自分が好きなことや、自分の性自認。人それぞれ自分にとっての普通は異なっているのです。人は、一般的な普通にとらわれずに、もっと自由な解釈で生きてもいいと思います。

この本を読み、私は「普通」という言葉、その言葉のせいで生きづらい人々のことについて深く考えました。普通とは人それぞれ異なるのに、多くの人々は、一般的な普通にとらわれて自分にとっての普通を隠し、周りに合わせた普通の枠に無理矢理おさまろうとしています。しかし、人々はもっと自由に生きていいと思うのです。自分の気持ちに素直になっていいと思うのです。自分がどんなことを好きでも、好きなことを素直に表現していいのだと思います。自分が他の人と違うことについて悩んでいる人は思っているより多く、自分の好きなことを表現することが怖いという人も世の中にはたくさんいます。しかし、世の中の考えは変わってきています。自分の好きなことを素直に表現しても受け入れてもらえる社会になってきています。様々な人が自分の個性に自信を持って表現できるようになるのだと思います。私は、この本を読んで気付いた多様性への考えを忘れずにこれからも生活していきたいと思っています。

さんの感想文には、その表現力の豊かさに驚かされました。美しい情景描写と辛く空虚な気持ちとの対比、その辛く空虚な気持ちと向き合い、それを乗り越えて得た自身の成長など、胸を締め付けられるようです。直接話して伝えることは難しくても、それを文字で書き表し表現することで、人は人に気持ちを伝えられる、感動を与えられる、もしかしたら世の中を変えることもできるかも…と改めて感じさせられました。

一方、さんの感想文からは、「普通」という言葉の裏にある怖さを感じさせられました。常に柔軟な見方、考え方で「普通」という言葉に隠された真実を追い求めることや、広い視野で互いを認め合い尊重し合うことの大切さ、そのようなことを考えました。さらに、「思い込み」も「真実を知らない」と同義なのではないか、確かめることや根拠を明確にすること、知ること、学ぶことが大切だ、…そのように考えが広がっていきました。

中学生の　さんや　さんが、こうして「本」という媒体を通して他者の心に思いを寄せ、自分を重ね、感情や主張を受け止め、それを自分の頭で改めて考え、その上で自分の気持ちや他者にも考えてほしいことなどを言葉で、文字で伝えることができているのに、どうして一部の大人はそこかしこで争いを繰り返し、小さな子供の命まで危険にさらすような紛争や事件を起こしているのでしょうか。…話が飛躍してしまいました。

**南中生の活躍**

(敬称略)

大会名		成績	氏名(学年)・部名
第73回東京都中学校秋季新人ソフトボール大会		第3位	女子ソフトボール部
令和6年度 中学生の「税についての作文」		武蔵野税務署長賞	(3年)
		小金井市長賞	(3年)
第28回多摩合同交流新体操競技会	個人・リボン	第6位	(2年)
	個人・クラブ	第8位	(2年)
2024産経ジュニア書道コンクール		特選	(3年)
小金井市読書感想文コンクール		最優秀賞	(2年)
		優秀賞	(1年)
第76回小金井市民陸上競技大会一般男子100m		第3位	(3年担任)

**☆祝・都大会出場!☆**

東京都秋季新人サッカー大会 南中サッカー部

**12月行事予定**

日	曜	行	事	日	曜	行	事
1	日			17	火		
2	月	⑤⑥カット	教育相談・進路面談 新入生保護者説明会	18	水		
3	火	⑤⑥カット	教育相談・進路面談 朝礼	19	木	セーフティ教室	学校保健委員会
4	水	⑤⑥カット	教育相談・進路面談	20	金	⑥カット	ハチドリ週間終
5	木	⑤⑥カット	教育相談・進路面談	21	土		
6	金	⑤⑥カット	教育相談・進路面談 安全指導	22	日		
7	土			23	月		
8	日			24	火	⑥カット	大掃除
9	月	⑤⑥カット	教育相談・進路面談	25	水		第2学期終業式
10	火	専門委員会	PTA全学年委員会	26	木		冬季休業日始
11	水			27	金		
12	木	⑤⑥カット		28	土		
13	金	中央委員会		29	日		学校閉庁日
14	土			30	月		学校閉庁日
15	日	私立高校入試相談始		31	火		学校閉庁日
16	月	避難訓練	ハチドリ週間始				

**☆学校教育に関するアンケートのお願い☆**

12月2日(月)メールで配信いたしました。12月20日(金)までにフォームにてご回答ください。南中学校のよりよい教育活動に向けて、ご理解・ご協力よろしくをお願いいたします。